

6. 各地域のまとめ

6.1 佐久保健医療圏

《まとめ》

- ・ 佐久保健医療圏の在宅医療については、2015年の20,891件から2025年に25,399件(121.6%)と増加が見込まれる。
- ・ 在宅医療の提供に際して、アクセスに時間がかかるエリアが存在している。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、27か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の5か所が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、27か所(38.0%)、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が44か所(62.0%)となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、5か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。訪問診療を実施していない4か所の医療機関が「今後も実施する予定はない」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、15か所(34.1%)であった。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、6か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、往診を実施していない3か所の医療機関が「今後は実施を検討する」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が36.4%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が43.1%であった。
- ・ 医療機関(病院・診療所)からの所要時間をみると、平均15.9分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で25.6分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が43件(43.0%)と最も多く、平均で11.2人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均21.3分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で31.6分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が26件(30.6%)と最も多く、平均で19.5人であった。
- ・ 医療機関および訪問看護ステーションからの訪問可能性については、南佐久郡川上村は片道60分以内、南佐久郡南相木村、北相木村では片道30分以内という条件付きであった。
- ・ 療養病床において、在宅医療中の急性増悪についての入院は他の二次医療圏と比較して21.1%と高くなっている。
- ・ 療養病床において、退院可能な患者において、「本人・家族が希望しない」との回答が58.8%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ 療養病床において、医療区分1の入院患者が55.0%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEBアンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分未満」が54.0%と県内の二次医療圏の中ではアクセスが良い。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「判断できない」が49.0%、「希

望する」が 36.0%となっていた。

- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 61.0%、「希望しない」が 39.0%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が 40.0%と最も高く、次いで「外科系」が 24.0%となっていた。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「がん治療への対応」が 33.0%と最も多く、次いで「救急医療」が 31.0%となっていた。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が 41.0%で最も高く、次いで「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」が 36.0%であった。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の20,891件から2025年に25,399件(121.6%)、2040年には31,496件(150.8%)の増加が見込まれる。特に、特定施設入居時医学総合管理料の増加が最も多く2040年度には2015年度の158.7%の見込みとなっている。

6.2 上小保健医療圏

《まとめ》

- ・ 上小保健医療圏の在宅医療については、2015年の15,389件から2025年に19,230件(125.0%)と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、33か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の6か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ WEB調査の結果からは、「がん検診への助成」や「がん治療への対応」についてニーズが高かった。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、33か所(44.6%)、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が39か所(52.7%)となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、6か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、訪問診療を実施していない2か所の医療機関が「今後は実施を検討する」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、11か所(28.2%)であった。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、7か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が30.8%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が51.7%であった。
- ・ 医療機関(病院・診療所)からの所要時間をみると、平均15.3分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で22.0分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が23件(30.7%)と最も多く、平均で9.4人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均16.7分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で26.5分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が29件(32.2%)と最

も多く、平均で 12.4 人であった。

- 療養病床において、重度かつ慢性期患者の管理については 81.3%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEB アンケート調査》

- 自宅から医療機関までの所要時間は「10 分未満」が 45.7%であった。
- 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「判断できない」が 46.0%、「希望する」が 38.0%となっていた。
- 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 62.0%、「希望しない」が 38.0%となっていた。
- 充実してほしい診療科については、「内科系」が 47.0%と最も高く、次いで「外科系」が 35.0%となっていた。「内科系」を希望する割合は二次医療圏の中でも最も高かった。また、「婦人科系」も 31.0%と高い。
- 今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が 36.0%と最も多く、次いで「がん治療への対応」が 26.0%となっていた。
- 10 年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が 35.0%で最も高く、次いで「がん検診への助成の充実」が 31.0%であった。

《在宅医療の需要推計》

- 在宅医療の将来推計は、2015 年の 15,389 件から 2025 年に 19,230 件（125.0%）、2040 年には 23,412 件（152.1%）の増加が見込まれる。

6.3 諏訪保健医療圏

《まとめ》

- 諏訪保健医療圏の在宅医療については、2015 年の 19,110 件から 2025 年に 25,106 件（131.4%）と増加が見込まれる。増加割合は保健医療圏の中で最も高い。
- 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、28 か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の 7 か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- WEB 調査の結果からは、今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」と「がん治療への対応」の割合が高かった。
- 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、28 か所（36.4%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が 47 か所（61.0%）となっている。
- 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、7 か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- 24 時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、15 か所（31.9%）であった。
- 往診について、保健医療圏内の診療所では、5 か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「片道 30 分以内なら可」が 42.3%、

訪問看護ステーションでは、「全域可」が 68.0%であった。

- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均 14.1 分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で 20.7 分であった。現在の訪問実施人数は「3 人未満」が 44 件（41.5%）と最も多く、平均で 10.6 人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均 17.3 分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で 27.6 分であった。現在の訪問実施人数は「3 人未満」と「10～30 人未満」が 13 件（28.9%）と最も多く、平均で 18.2 人であった。

《WEB アンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10 分未満」が 51.9%、「10 分以上 30 分未満」が 44.2%であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「判断できない」が 47.0%、「希望する」が 40.0%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 58.0%、「希望しない」が 42.0%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が 35.0%と最も高く、次いで「外科系」が 26.0%となっていた。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」と「がん治療への対応」が 30.0%となっていた。
- ・ 10 年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が 39.0%で最も高く、次いで「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」が 35.0%であった。「人生の最後を自宅で看取ってくれる医療機関が増えてほしい」も 30.0%と多い。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015 年の 19,110 件から 2025 年に 25,106 件（131.4%）、2040 年には 29,862 件（156.3%）の増加が見込まれる。

6.4 上伊那保健医療圏

《まとめ》

- ・ 上伊那保健医療圏の在宅医療については、2015 年の 20,019 件から 2025 年に 24,670 件（123.2%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、27 か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の 2 か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ WEB 調査の結果からは、今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」と「救急医療」が 33.6%となっていた。医療機関の誘致を希望する回答も多く見られた。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、27 か所（41.5%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が 37 か所（56.9%）となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、2 か所の医療機関が「今後は縮小を検討し

ている」と回答している。

- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、15か所（40.5%）であった。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「片道30分以内なら可」が41.5%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が54.0%であった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均19.1分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で25.1分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が29件（33.0%）と最も多く、平均で7.3人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均15.8分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で22.9分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が10件（24.4%）と最も多く、平均で14.5人であった。

《WEBアンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分未満」が50.0%、「10分以上30分未満」が41.7%であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が44.3%、「判断できない」が40.5%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が65.6%、「希望しない」が34.4%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が38.2%と最も高く、次いで「婦人科系」が32.1%となっていた。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」と「救急医療」が33.6%となっていた。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が40.5%で最も高く、次いで「がん検診への助成」が29.8%、「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」が29.0%、「地域医療を担う医療機関の誘致」29.0%であった。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の20,019件から2025年に24,670件（123.2%）、2040年には29,051件（145.1%）の増加が見込まれる。特に、往診の増加が最も多く2040年度には2015年度の151.2%の見込みとなっている。

6.5 飯伊保健医療圏

《まとめ》

- ・ 飯伊保健医療圏の在宅医療については、2015年の17,513件から2025年に20,086件（114.7%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、17か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の4か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。往診についても、7か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答した。
- ・ WEB調査の結果からは、今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」が31.7%と最も高くなっていた。
- ・ 今後の需給ギャップが高まることが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、17 か所 (23.3%)、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が 56 か所 (76.7%) となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、4 か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、訪問診療を実施していない 6 か所の医療機関が「今後も実施する予定はない」と回答している。
- ・ 24 時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、17 か所 (30.4%) であった。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、7 か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「片道 30 分以内なら可」が 34.2%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が 88.8% であった。訪問看護ステーションは「全域可」の割合が二次医療圏の中で最も多かった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均 16.5 分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で 25.5 分であった。現在の訪問実施人数は「3 人未満」が 58 件 (43.3%) と最も多く、平均で 7.7 人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均 20.1 分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で 30.5 分であった。現在の訪問実施人数は「3 人未満」が 15 件 (25.4%) と最も多く、平均で 10.4 人であった。
- ・ 医療機関からの訪問については、飯田市（上村・南信濃）では、片道 30 分以内なら可との回答がみられ、下伊那郡阿南町においては、片道 60 分以内なら可との回答がみられている。
- ・ 療養病床において、要介護 5 は 71.7% と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ 療養病床において、介護療養型医療施設への入院が 78.8% と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEB アンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10 分以上 30 分未満」が 52.9% と二次医療圏の中では割合が最も高かった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」と「判断できない」が 46.0% となっていた。「希望する」と回答した割合は二次医療圏の中では最も多かった。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 66.7%、「希望しない」が 33.3% となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が 35.7% と最も多く、次いで「婦人科系」が 32.5% となっていた。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」が 31.7% と最も高くなっていた。
- ・ 10 年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が 44.4% で最も高く、次いで「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」が 36.5% であった。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015 年の 17,513 件から 2025 年に 20,086 件 (114.7%)、2040 年には 22,208 件 (126.8%) の増加が見込まれる。特に、往診の増加が最も多く 2040 年度には 2015 年度の 129.9% の見込みとなっている。

6.6 木曾保健医療圏

《まとめ》

- ・ 木曾保健医療圏の在宅医療については、2015年の2,767件から2025年に3,197件（115.5%）と増加が見込まれる。
- ・ 保健医療圏内の病院、診療所といった医療機関の数がそもそも限られている。
- ・ 医療機関（病院・診療所）から在宅への所要時間をみると、平均44.3分、訪問看護ステーションから在宅への所要時間は、平均27.1分となっており、在宅へのアクセスの時間が他の医療圏との比較でみると、長い状況にある。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内の7か所の診療所では「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」が100.0%となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、1か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、3か所（42.9%）であった。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が65.2%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が71.4%であった。医療機関からの「全域可」の回答割合が二次医療圏の中で最も多かった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均44.3分と二次医療圏の中で最も長い。現在の訪問実施人数は「3人未満」が9件（56.3%）と最も多く、平均で12.1人であった。1医療機関当たりの平均訪問人数が二次医療圏の中でも最も多かった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均27.1分と二次医療圏の中で最も長い。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で45.0分であった。現在の訪問実施人数は平均で13.7人であった。
- ・ 療養病床において、2015年4月以降の入院は87.9%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ サンプル数は少ないものの、療養病床において、入院患者の退院可能性について、「病状は安定しており、退院可能」が81.8%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEB アンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分未満」と「10分以上30分未満」が44.4%であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「判断できない」が51.2%、「希望する」が44.2%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が72.1%、「希望しない」が27.9%となっていた。「希望する」の割合が二次医療圏の中では最も高い。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が46.5%と最も高い。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「がん治療への対応」が37.2%、次いで「在宅医療」が32.6%となっていた。「がん治療への対応」との回答割合が二次医療圏の中で最も高かった。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が58.1%で最も高かった。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の2,767件から2025年に3,197件（115.5%）の増加が見込まれ、以降、2040年には3,172件（114.6%）と徐々に減少することが見込まれる。

6.7 松本保健医療圏

《まとめ》

- ・ 松本保健医療圏の在宅医療については、2015年の41,635件から2025年に53,651件（128.9%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、69か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の12か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。往診についても、18か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答した。
- ・ WEB調査の結果からは、今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が30.0%、次いで「在宅医療」が29.0%となっていた。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、69か所（32.5%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が139か所（65.6%）となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、12か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、訪問診療を実施していない15か所の医療機関が「今後も実施する予定はない」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、34か所（24.5%）であった。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、18か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が33.2%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が52.3%であった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均17.4分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で24.9分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が114件（36.9%）と最も多く、平均で8.8人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均21.5分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で27.5分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が82件（34.2%）と最も多く、平均で9.9人であった。訪問看護ステーションの平均人数は二次医療圏の比較で少なかった。
- ・ 療養病床において、80歳未満の入院は他の二次医療圏と比較して61.6%と高く、また2012年3月以前の長期入院は40.3%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ 療養病床において、精神科疾患のある入院患者が50.9%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ 療養病床において、自宅介護力の「ない」との割合が71.0%と他の二次医療圏と比較して高い。

《WEBアンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分未満」が54.8%であり、二次医療圏の中で、最も

割合が高かった。

- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「判断できない」が 55.0%、「希望する」が 35.0%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 68.0%、「希望しない」が 32.0%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が 35.0%と最も高く、次いで「外科系」が 26.0%であった。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が 30.0%、次いで「在宅医療」が 29.0%、「がん治療への対応」が 26.0%となっていた。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「がん検診への助成」が 36.0%で最も高く、次いで「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」が 35.0%となっていた。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の41,635件から2025年に53,651件（128.9%）、2040年には65,776件（158.0%）の増加が見込まれる。

6.8 大北保健医療圏

《まとめ》

- ・ 大北保健医療圏の在宅医療については、2015年の6,353件から2025年に7,524件（118.4%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が23か所となっている。在宅医療に取り組む診療所の割合が他の医療圏と比較しても高い。
- ・ WEB調査の結果からは、「救急医療」や「がん治療への対応」についての回答の割合が高かった。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、4か所（14.3%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が23か所（82.1%）となっている。在宅医療に取り組む診療所の割合が他の医療圏と比較しても高い。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、2か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、4か所（17.4%）であった。長野保健医療圏と同様、二次医療圏の中では低い割合となっている。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、3か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が46.7%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が61.4%であった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均15.9分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で24.3分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が15件（35.7%）と最も多く、平均で10.1人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均22.7分であった。最も時間がかかる場合の所

要時間は平均で 31.6 分であった。現在の訪問実施人数は「3 人未満」が 13 件（38.2%）と最も多く、平均で 15.8 人であった。

- ・ 療養病床において、療養病棟入院基本料 1 が 84.7%と他の二次医療圏と比較して高く、また医療区分 3 の入院患者が 42.4%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。
- ・ 療養病床において、入院患者の退院可能性について、「病状不安定のため退院の見込みなし」が 57.6%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEB アンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10 分未満」が 48.8%であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 42.0%、「判断できない」が 38.0%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が 55.0%、「希望しない」が 45.0%となっていた。「希望しない」との回答割合が二次医療圏の中で最も高かった。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が 43.0%と最も高く、次いで「婦人科系」が 35.0%であった。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が 42.0%、次いで「がん治療への対応」が 27.0%となっていた。「救急医療」と回答した割合が二次医療圏の中で最も高かった。
- ・ 10 年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が 38.0%、次いで「がん検診への助成」および「人生の最後を自宅で看取ってくれる医療機関」が 31.0%となっていた。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015 年の 6,353 件から 2025 年に 7,524 件（118.4%）、2040 年には 8,440 件（132.8%）の増加が見込まれる。

6.9 長野保健医療圏

《まとめ》

- ・ 長野保健医療圏の在宅医療については、2015 年の 44,236 件から 2025 年に 55,938 件（126.5%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、105 か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の 8 か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。往診についても、15 か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答した。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が 31.0%、次いで「在宅医療」が 28.0%となっていた。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、105 か所（50.5%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が 99 か所（47.6%）となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、8 か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、8 か所の医療機関が、「今後も実施する予定はない」と回

答している。

- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、16か所（16.2%）であった。大北保健医療圏と同様、二次医療圏の中では低い割合となっている。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、15か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「全域可」が34.1%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が43.1%であった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均15.7分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で22.8分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が111件（44.9%）と最も多く、平均で6.0人であった。訪問実施人数の平均は二次医療圏の中で最も少なかった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均18.4分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で25.5分であった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が67件（35.6%）と最も多く、平均で9.4人であった。訪問実施人数の平均は二次医療圏の中で最も少なかった。
- ・ 医療機関からの訪問では長野市芋井・戸隠・鬼無里、上水内郡飯綱町で、概ね30分以内であれば可能との回答がみられた。
- ・ 訪問看護ステーションからの訪問は、長野市芋井・鬼無里・信更・大岡、上水内郡小川村では概ね30分以内であれば可能との回答がみられている。
- ・ 療養病床において、在宅での患者受け入れが困難な理由について、「家族の仕事・高齢等」の割合が63.6%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。自宅介護力も「ない」との割合が64.0%と松本保健医療圏に次いで高い。

《WEB アンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分以上30分未満」が47.8%、「10分未満」が45.7%、であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」および「判断できない」が43.0%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が59.0%、「希望しない」が41.0%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が44.0%と最も高かった。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「救急医療」が31.0%、次いで「在宅医療」が28.0%となっていた。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が41.0%、次いで「医療機関の受診の必要性についての相談窓口」および「がん検診への助成」が37.0%となっていた。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の44,236件から2025年に55,938件（126.5%）、2040年には66,984件（151.4%）が見込まれる。特に、在宅患者訪問診療料（同一建物居住者、特定施設等入居者）の増加が最も多く2040年度には2015年度の156.5%の見込みとなっている。

6.10 北信保健医療圏

《まとめ》

- ・ 北信保健医療圏の在宅医療については、2015年の5,492件から2025年に6,289件（114.5%）と増加が見込まれる。
- ・ 「訪問診療・往診のいずれも実施していない」診療所が、13か所あり、現在訪問診療を実施している診療所の2か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答している。往診についても、4か所の診療所が「今後は縮小を検討している」と回答した。
- ・ WEB調査の結果からは、今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」が31.0%、次いで「救急医療」が30.0%となっていた。
- ・ 今後は需給ギャップが拡大することが推察される。

《在宅医療に係る実態調査》

- ・ 保健医療圏内では、「訪問診療・往診のいずれも実施していない」と回答した診療所が、13か所（39.4%）、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」と回答した診療所が20か所（60.6%）となっている。
- ・ 訪問診療について、保健医療圏内の診療所では、2か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。また、5か所の医療機関が、「今後も実施する予定はない」と回答している。
- ・ 24時間の往診に対応している診療所は、保健医療圏内において、4か所（20.0%）であった。
- ・ 往診について、保健医療圏内の診療所では、4か所の医療機関が「今後は縮小を検討している」と回答している。
- ・ 保健医療圏内の訪問可能性については、病院・診療所では「片道30分以内なら可」が33.9%、訪問看護ステーションでは、「全域可」が35.1%であった。
- ・ 医療機関（病院・診療所）からの所要時間をみると、平均20.8分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で31.3分と二次医療圏の中で最も長かった。現在の訪問実施人数は「3人未満」が16件（42.1%）と最も多く、平均で8.4人であった。
- ・ 訪問看護ステーションからの所要時間は、平均23.7分であった。最も時間がかかる場合の所要時間は平均で31.8分であった。現在の訪問実施人数は平均21.0人で、二次医療圏の中で最も多かった。
- ・ 療養病床において、入院前の世帯構成で同居者有り（世帯構成員に65歳未満を含む）は60.5%と他の二次医療圏と比較して高くなっている。

《WEBアンケート調査》

- ・ 自宅から医療機関までの所要時間は「10分未満」が51.0%、次いで「10分以上30分未満」が43.1%であった。
- ・ 自分が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が42.0%、次いで「判断できない」が38.0%となっていた。
- ・ 家族が病気になった場合の在宅医療を希望するについては、「希望する」が57.0%、「希望しない」が43.0%となっていた。
- ・ 充実してほしい診療科については、「内科系」が43.0%と最も高かった。
- ・ 今後充実してほしい診療の機能については、「在宅医療」が31.0%、次いで「救急医療」が30.0%となっていた。
- ・ 10年後の在宅医療・介護をふまえた上で行政に期待したいこととしては、「身近な地域で安心して医療・介護が受けられるまちづくり」が35.0%で最も高く、次いで「がん検診への助成」が32.0%となっていた。

《在宅医療の需要推計》

- ・ 在宅医療の将来推計は、2015年の5,492件から2025年に6,289件（114.5%）、2040年には6,990件（127.3%）の増加が見込まれる。特に、往診の増加が最も多く2040年度には2015年度の133.2%の見込みとなっている。